



# 愛隣幼稚園..... 園だより ..... 12.6月号

## お母さんの長靴

新緑の季節から木々の葉が生い茂る季節へと目に映る風景も変わりつつあります。気がつけば園庭でさえもかなりの様変わりです。畑のじゃがいもは美しい花をつけました。寒い季節に花を咲かせていた枇杷の実は知らぬ間に大きくなっていて、この木を植えてってくれたクローバー組の保護者でもある S さん(お父さん)が先日袋掛けをしてくださいました。ちきゅう組が植えてくれたみかんの木は 3 年ぶりに花を咲かせました。「おはよう」の朝ごとに見上げる桜の樹は濃い緑の葉に覆われ、園庭に大きな日陰を作ってくれるようになりました。自然はこんなに大きな変化を遂げているのに、下ばかり見ていて視線を上げることがなかったり、のんびりゆっくり歩くことがなかったり、“はやくはやく”なんてことばかりが大切になってしまうと、こんなに素敵な神様からの贈り物を全く受け取らずに見過ごしてしまいます。ちょっともったいない話です。さて、季節はそろそろ梅雨に向かいます。また気付かぬところに神様は、この季節だけの楽しい仕掛けをしてくださっているかもしれません。

園長になって 4 年目。私の愛隣自慢のひとつに雨の日のお母さんたちの長靴率の高さがあります。子どもたちが雨の日に長靴でやってくるのは珍しくありませんが、手を繋いで一緒にやってくるお母さんたちの足元も同じように長靴、そしてその割合が最近どんどん高くなっているように感じます。3月の園内清掃の日は、あいにくの雨でした。大人用の靴箱の下段はもちろん長靴でいっぱい、溢れた長靴たちが緑テラス(職員室前)に並んでいました。雨の日のお母さんたちは「この泥んこの園庭じゃ、長靴だよね～」と言って笑いますが、長靴を履いてやってくるのには他にも理由があると私は勝手に思っています。その勝手な思い込みが私の愛隣自慢の根拠でもあるわけです。子どもたちは青空の下、足取り軽くやってくる朝も好きですが、レインコートに長靴の登園も実は鼻歌まじりだったりします。傘やレインコートに当たる雨の音、小さな雨粒、大きな雨粒、濡れて冷たくなれば嫌な雨も、レインコートの完全防備ならそれは大空からのきらきらシャワーにだって思えたりします。そしてなんととっても最高なのは、歩く道々に見つける水溜りです。何故だかその水溜りからはあっちからもこっちからも「入って」「入って」と子どもたちを呼ぶ声が聞こえてきます。そのお誘いをきくと子どもたちは断ることができないのでしょう。右に左に、見つけた水溜りを全て制覇しないことには前に進むことが出来なかったりします。大きいのやら小さいのやら、深いのやら浅いのやら。楽しくて楽しくて……。おなかの真ん中あたりがムズムズと動いて「ふふふ」と頬の筋肉も緩んでしまいます。最近やってないなぁと思う方は、小さい頃を思い出してみてください。眠った好奇心が目覚めておなかの真ん中あたりがムズムズしてきませんか？子どもたちはそんな好奇心のスイッチをたくさん持っていて、そのどれもが目覚めているのです。ですから水溜りを見れば入ってみたいくなるのも当然です。ムズムズは制御不能です。お母さんたちはきっとそのことをよくご存知で、雨の日の長い道のりを覚悟して長靴を選んで履いてくださっているのだと思っています。いえ、もっと積極的に、子どもと水溜りの寄り道を楽しんでくださっているかもしれない……。そんな事を並んだ長靴から勝手に想像して私もまた「ふふふ」と頬の筋肉が緩んでしまいます。バスを持っていなくて良かったと思ってしまいます。子どもと一緒に長靴とレインコートで歩いたら、梅雨の季節に神様が施してくださった楽しい仕掛けをきくとたくさん見つけられそうです。今だからこそ子どもと共感出来るムズムズのスイッチもたくさん見つけられたらと思います。ちょっと奮発して雨の日が楽しくなる私のためのレイングッズを購入するのもお勧めです。